

平成25年度 新たな学校防災教育モデル校の取組

行政区	若林区	学校番号	23	学校名	仙台市立荒浜小学校
-----	-----	------	----	-----	-----------

1 重点取組事項

- 1 校内研究における防災授業の取組と防災教育カリキュラムの改善
- 2 非常時における各種訓練の実施
- 3 復興プロジェクトの取組

2 重点取組事項の具体的な内容

1 校内研究における防災授業の取組と防災教育カリキュラムの改善

校内研究では、「自他のいのちを大切にしようとする子供の育成」をテーマとし、以下の三点を研究の視点として全学年で防災の授業に取り組んだ。

視点1 「いのち」を大切にしたいという思いや考えを持たせるための教材の工夫

視点2 「いのち」を大切にしようとして協力して行動させるための単元構想の工夫

視点3 防災教育カリキュラムの改善

(1) 校内研究における防災授業の取組

今年度は、各学年の実態を考慮しながら、総合的な学習の時間や特別活動においてどのような防災の授業が可能かを模索した1年間であった。

1, 2年生合同の研究授業は、「ぼくのわたしのひじょうもちだしぶくろ」を題材とし、自分や家族に合った「非常持ち出し袋」の中身を考えさせた。学級活動を中心として、生活科や家庭での課題との関連を図りながら、総合単元的に活動の見通しを設定した。1, 2年生の児童は、備蓄倉庫を見学した経験や教師のアドバイスなどから、自分なりに非常持ち出し袋の中身について考えることができた。また、「授業づくり訪問」に位置付け、教育センターの指導主事や七郷中学校の先生方にも参観していただき、幅広く協議していただいた。防災教育における家庭への啓発の観点や、単元づくりの工夫などについて指導いただいた内容は、今後の実践の参考になった。



(2) 防災教育カリキュラムの改善

昨年度作成した各学年における防災教育カリキュラムに、防災副読本を位置付けた。1年間の実践を振り返りながら、上学年と下学年それぞれに各学年に位置付けた内容が適切だったかを再検討した。

2 非常時における各種訓練の実施

本校は、被災により、37名の児童のほとんどがスクールバスを利用し、間借りをしている東城野小学校に登校している。このような特殊事情に対応し、児童の安全を守るために、今年度は年間5回の非常時における訓練を行った。

(1) 避難訓練

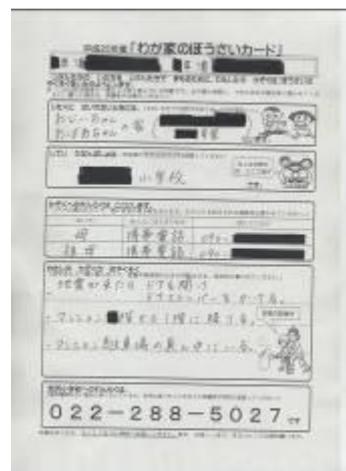
東宮城野小学校と合同で、地震、火災、休憩時間における避難訓練をそれぞれ行っている。

(2) バス乗車時における災害発生時の対応訓練

スクールバス乗車時の対応については、昨年度から地震の際は震度5以上で学校に引き返すことを保護者に周知している。それに基づいてスクールバスを運行している愛子観光に協力を依頼し、乗車時に災害が発生したことを想定して訓練を実施した。

(3) 帰宅後の安否連絡訓練

本校では、昨年度から、災害時に、児童が自分の命を守るために、自分で考えて行動できるようにするための手掛かりにしたいという考えから、「わが家の防災カード」を作成している。カードは、災害が起きたときの約束について家族と話し合っけて記入し、各家庭の玄関に貼ることを促進している。帰宅後の安否連絡訓練を行うに当たっては、事前に、「わが家の防災カード」を再確認させた。その上で、非常時の児童の安否確認を迅速に行うことと、保護者や児童の防災意識を高めることを目的に本訓練を実施した。保護者の協力を得て、一斉配信メール送信後、児童の居場所等について電話やメールで連絡を受け、集約を行った。訓練時の想定は以下のとおりである。



- ① 正午頃、宮城県沖で震度5強の地震が発生。
- ② 津波注意報が出たがすぐに解除になった。
- ③ 子供たちは下校のスクールバスを降りて家に帰る途中か、家でそれぞれの時間を過ごしている。
- ④ ライフラインは止まっておらず、電話も使える状態である。

この訓練を通して、子供や保護者の、防災に対する危機意識が高まった。

3 復興プロジェクトの取組

地域に貢献できる児童の育成を図るため、児童自身に「人のために何かできることはないか」と考えさせることができるように、毎月1回、地域のゴミ拾いや草取りを実施した。また、東宮城野小学校の児童のあいさつ運動の様子を見て、徒歩通学の2年生児童が、自主的に朝の「あいさつ運動」を始めた。現在も続いており、他の児童の挨拶啓発につながっている。

3 成果と課題

- 1 (1) 校内研究を通してお互いの授業を見合い、課題を共有することが、授業計画の改善につながった。また、テーマに沿って授業を進めたことで、児童に「いのち」を大切にしようという気持ちを持たせることができた。
(2) 学年ごとに「防災カリキュラム」を作成し、年間を見通した授業計画を立案したことで、新たな防災教育を展開するためのイメージを共有することができた。今後学年間で内容を調整検討することで、より良い防災教育カリキュラムとなるように、改善を図っていきたい。
- 2 各種訓練を実施したことで、児童自身が、「自分の命は自分で守る」ことや、学校外で災害が起こったときの対応の仕方などを考えることができた。また、保護者の防災意識を高めるための啓発にもつながった。
- 3 復興プロジェクトの取組を積み重ねることにより、児童が自ら挨拶をしたり、校舎内に落ちているごみを拾ったりする姿が見られるようになった。今後は、更に児童が主体的に活動することができるように指導、支援をしていきたい。